



東京弁護士会テニス大会に参加してみませんか？

会員 望月 岳史 (57期)

皆さんは、東京弁護士会テニス大会をご存じだろうか。昨年10月8日、千葉の南市川テニスガーデンで行なわれた今回で2回目となるまだ新しい大会である。

大会には、弁護士に限らず、家族、友人、事務所の事務職員など様々な人が参加できる。テニスのレベルも、法曹・御前テニスの常連、体育会出身の猛者から、ラケットを手にしてまだ数回の初心者まで、実に様々な人がいる。これら参加している方々が、誰に合わせるものでもなく一緒に和気藹々とテニスを楽しむことができるアットホームな雰囲気が、この大会の最大の特徴である。

その秘密は、やはり団体戦というところにあるだろう。一応、初級、中級、上級というテニスの習熟度を自己申告してもらった上で、各級ごとのダブルス・ペア3組を編成し、これを1チームとしてラウンドロビン方式のチーム対抗リーグ戦を行ない、その後トーナメントで順位をつけていくのだが、これが実に面白い。テニスとはもともと個人競技の色彩が強いが、これが団体戦となると、ただの個人戦にはないモーメントが生じる。みんなが自分のチームを応援する様はさながらデビスカップやフェドカップのようである（少々言い過ぎか？）。チームの中にヤニック・ノアやビリー・ジーン・キングのような監督（闘将）がいればなおさらである。そしてその勢いはダブルス・ペアに伝染し、時として思いもしなかった番狂わせを呼ぶ。前回最下位であった私が、

今回、奇跡的に優勝チームの一員となれたのも、ひとえに、チームの応援、勢いがあったからにほかならない。ワイワイガヤガヤとみんなで楽しむ。ただしプレイは真剣に。これがこの大会のルールであり、楽しみ方のマナーである。

また、勝負を終えた後の表彰式を兼ねた飲み会も楽しい。優勝から最下位まで、すべての順位をつけ、そのすべてのチームに何らかの表彰の品が手渡される。弁護士という職業柄、勝負事に対するこだわりがあるからか、チームごとの表彰時のコメントも大変個性的で面白い人が多い。弁護士に限らず、いろいろな方々が参加していることから、いろいろな人と知り合えるところも良い。初めて会った人でも、テニスという共通の話題があるから、それだけで盛り上がるができる。そして、単純に運動の後のビールは何よりも旨いのである。

このように、東京弁護士会テニス大会は、他のテニス大会にはない特徴を持った大変楽しい大会である。この大会を主催、運営していただいている諸先輩方にも大変感謝するとともに、私自身、次回も是非参加し、大会を盛り上げるためのお手伝いをしていきたいと思う。この記事を読んで、「我こそは」と思う方も、テニス初心者の方も、次回は、是非参加していただき、一緒に楽しんでいただければ幸いである。ご参加を心からお待ち申し上げます。



最後列中央が筆者